

矢次一夫 やすき 労働運動家。明治三十二年七月二十五日佐賀縣生れ、

昭和五十八年二月二十一日歿（八九—九三）。下積み生活のうち、上京して北一輝の食客となる。大正十年協調會に入り、野田醬油争議などの調停に當る。十四年労働事情調査所を、昭和八年國策研究會を設立。大政翼賛會參與、翼賛政治會理事を務め、戦後追放解除後、國策研究會を復活。三十二年岸信介首相の個人特使として渡韓、李承晩大統領と會見した。〈昭和の怪物〉の異名を有つ。

著書「昔の労働争議の思い出」（昭和二十一年十一月十五日國策研究会事務司）、「この人々—私の生きた昭和史」（昭和二十二年八月二十日光書房）、「労働争議秘録」（昭和五十四年十月一日日本工業新聞社）等。橋本文男著「矢次一夫—昭和史を動かす男」（昭和五十五年九月二十一日山手書房）刊。



労働争議秘録

わが国労働争議原点の記録

大正期から昭和の中ごろにかけ、いわゆる第一次世界大戦後の不況のさ中、わが国ではじめて本格的な労働争議が八幡製鉄所で起こった。本書は、この時代起きた大企業界の労働争議、ストライキを記録。また労働運動を客観的立場から資料を集めたものである。これら数種の資料は、わが国数多くの労働運動史の中でも、誠に貴重である。企業経営者、労働担当者はもとより、労働組合、機関、労働運動者、学者、研究者、また企業や学校などの図書館に備える好個の書である。